

アジア研究教育ユニット 令和4年度教育研究報告書

事業課題名	リーディングス アジアの家族と親密圏 国際共同編集
代表者名	落合恵美子
事業概要 (600字程度)	<p>グローバル COE「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」(2008～2012年、拠点代表：落合恵美子)が「アジア地域における国際共同研究実施のための共通基盤形成」というミッションを掲げ、その第一層をなす「アジア各国のそれぞれの言語で出版・発表された重要業績の収集・翻訳・共有」のために開始したプロジェクト。アジアの研究者たちの多くは主に英語圏で出版された文献を通して隣国の社会について学ぶというのが常であったが、弊害の多い迂回したコミュニケーションを避け、隣人から直接に学ぶために企画されたのがこのプロジェクトである。アジアにおける重要概念である「家族」とそれに関係する「親密性」について、リーディングス「アジアの家族と親密性 (Asian Families and Intimacies)」の刊行を企画し、アジアの9社会(日本、韓国、中国、台湾、ベトナム、フィリピン、インドネシア、タイ、インド)を代表する研究者が構成する国際編集委員会のもと、各国の多くの若手研究者が参加して、収録論文の確定し、英訳および日本語訳を進めてきた。令和4年度には、昨年度に刊行した『リーディングス アジアの家族と親密圏 全3巻』の内容とも深い関わりのある「儒教」に関連する書籍の出版のため、校正等を行った。</p>
成果の概要 (800字程度)	<p>2022年12月に京大出版会より、『東アジアは「儒教社会」か?』を刊行した。</p> <p>本書は、「序章 東アジアの家族主義を歴史化する」「第I部 多様な儒教化—東アジアの近世」「第II部 脱/再構築される儒教—近現代アジアの家族の変容」「終章 親族構造・文明化・近代化—世界的視野における「儒教社会」」で構成されており、「儒教資本主義」「儒教主義的福祉国家」—西洋中心主義への対抗として個人主義(自由主義)に対する家族主義の見直しとして、いま注目されている「儒教」について、そもそも儒教が説くとされる家族主義とは何なのか?本当に東アジアとは「儒教社会」なのか?東アジアが大きく変動した近世から近代の、制度、法、家族、実践に鋭く焦点を当て、中国、日本、朝鮮、台湾、琉球そしてベトナムの、多様な「家族主義」とジェンダー構造、その変容に迫ることで、再構築と脱再構築を繰り返してきた「儒教」と私たちの「家族」の未来を展望する内容となっている。</p>